

令和4年度



東明小だより

第4号

令和4年6月23日(木)

臨機応変にマスクの着脱を ～新型コロナ予防と熱中症予防～

校長 奥村 哲也

梅雨に入り、雨が降ったり、急に日差しが強くなったりするなど、蒸し暑い日が続いています。先日、低学年の児童から昼休みの出来事を聞きました。運動場の鉄棒の下の所にミミズがいたそうです。「雨の後だから出てきたんだと思うけど、そのままだとヒカヒカになっちゃう(干からびちゃう)から、土をかけてあげたよ。とっても大きなミミズだったんだよ。」とのこと。ミミズは命拾いをしたことでしょうか。子どもたちの優しさに感謝。それにしても、命に関わる強い日差しは、ミミズだけでなく、私たち人間にとっても大きな心配事です。

数日前の新聞に、福井県の小学校で児童20人が熱中症の疑いで救急搬送されたというニュースが載っていました。記事には、「校外学習の移動時に担任らがマスクを外すよう指示したが全員が外してはいなかった」とあり、教育委員会の担当者が「マスクを着けることに慣れて、外すのをためらう子もいる。強制もできず悩ましい。」というコメントを添えていました。

夏季における熱中症対策は、命に関わる重大な問題です。学校では、こまめに水分補給をしたり、体育などの活動時にマスクを外すように働きかけたりしています。また、熱中症指数が高い日には「塩分チャージタブレット・塩飴」を学校で食べてから下校するなどの対策を講じています。

登下校におけるマスクの使用についても、6月以降は、マスクを外して黙って歩くようにという指導をしています。しかし、本校でも、上の新聞記事同様に、マスクを外すことをためらう児童があるようです。



2022/06 3年生の体育の授業の様子

「臨機応変」という言葉があります。機に臨んで変に応ずる。新型コロナウイルス感染症予防と熱中症予防、どちらの対策も重要です。それ故、特にマスクの着脱については、臨機応変に対応しなければなりません。着脱の判断については、子どもたちが自分で判断できることが望ましいのですが、判断が難しい場合には、その都度、指示を出していかなくてはならないと考えています。新型コロナウイルス感染症の基本的予防対策を続けながら、同時に、熱中症の危険性について繰り返し指導を続けていく必要があると感じています。

保護者や地域の皆様には、登下校を見守っていただく中、状況に応じて、適宜、声をかけていただけたら幸いです。